

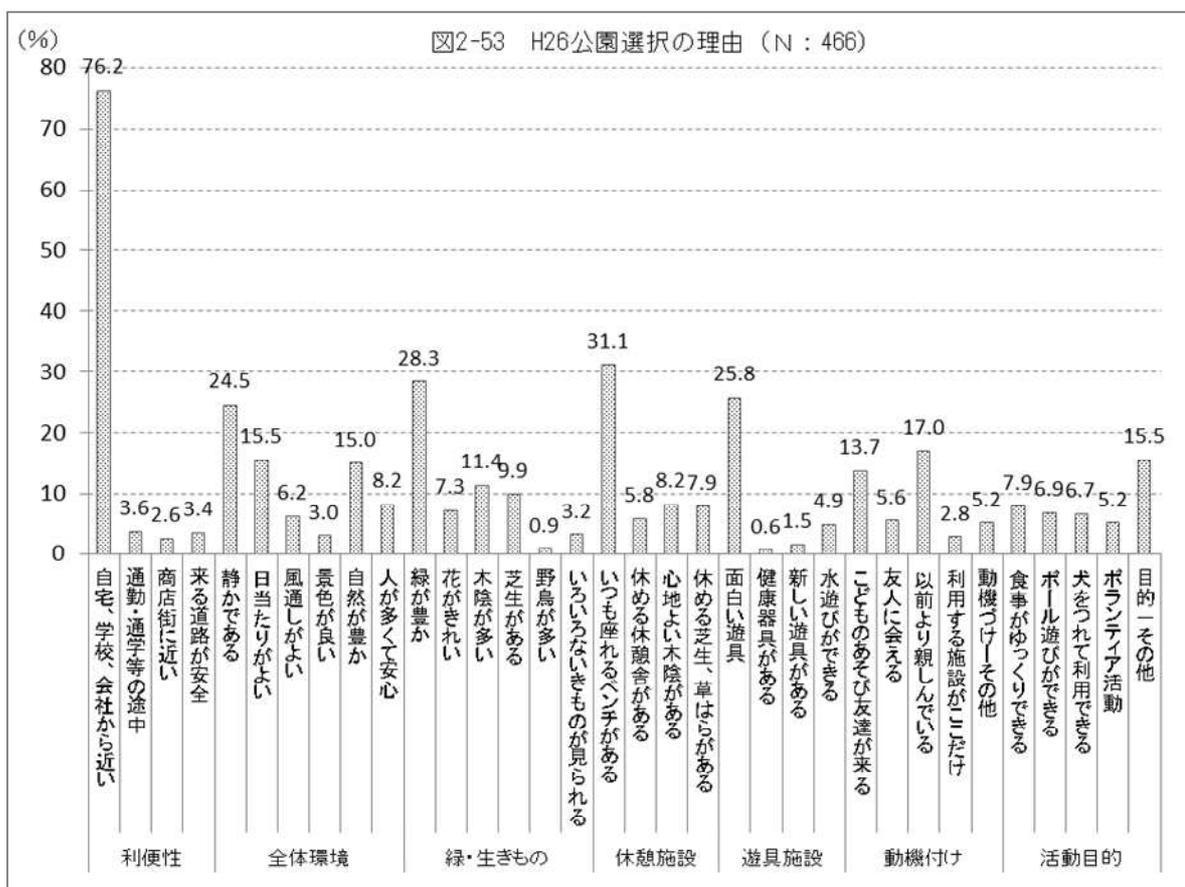
2. 公園利用者意向調査

(1) 公園選択の理由(複数回答 - 該当する項目全て)

1) 平成26年度の傾向

全体

公園の選択理由は、「自宅、学校、職場から近い」(76.2%)ことが突出して多くなっている。次いで、高齢者や成人の利用目的である休息に関連する「いつも座れるベンチがある」(31.1%)、「緑が豊か」(28.3%)となっている。



年齢別

年齢別では、どの年代でも「自宅、学校、職場から近い」が最も多いが、2番目に多かった理由として、小学生は「友人に会える」、中高生は「緑が豊か」、成人(20~30代)は「面白い遊具」、成人(40~50代)と成人(60代以上)は、「座れるベンチがある」となっており、各年齢層の主な公園利用の目的が表れていると考えられる。

図2-55 H26公園の選択理由（小学生）

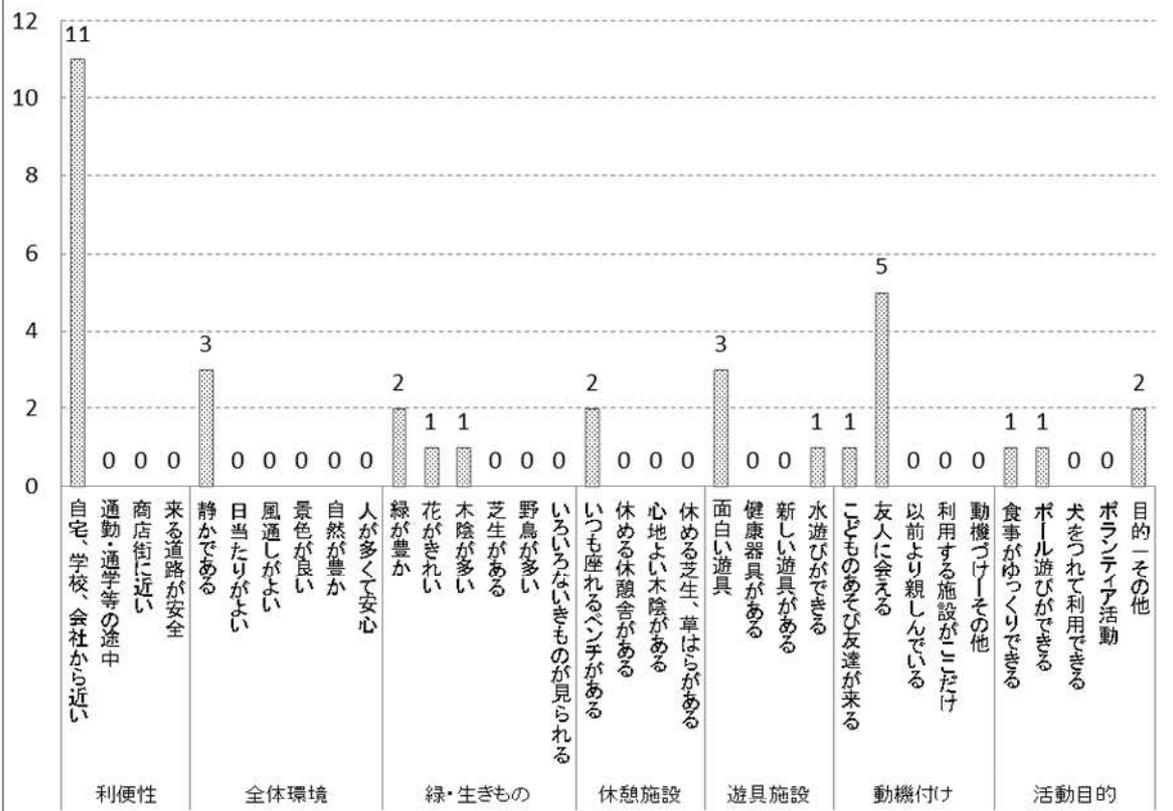


図2-56 H26.公園選択の理由（中高生）

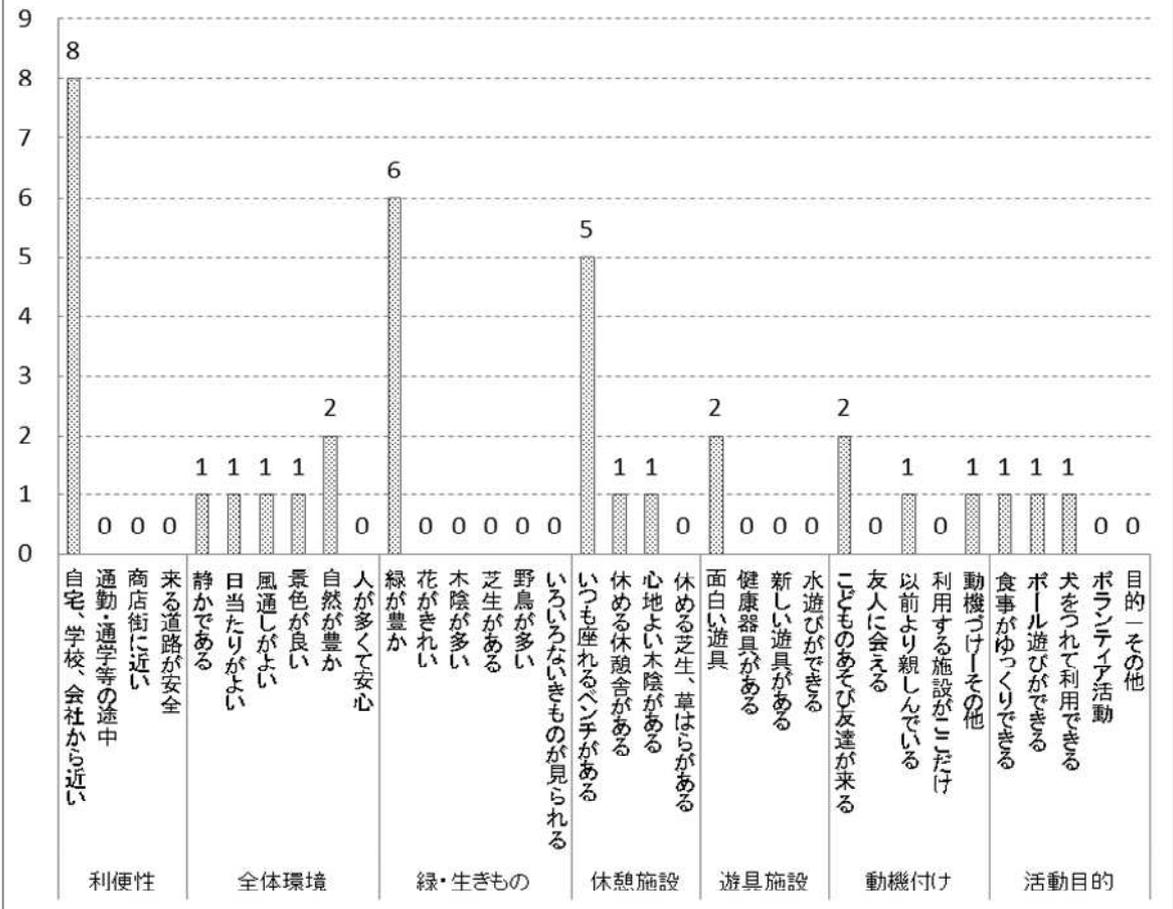


図2-57 H26.公園の選択理由（成人20～30代）

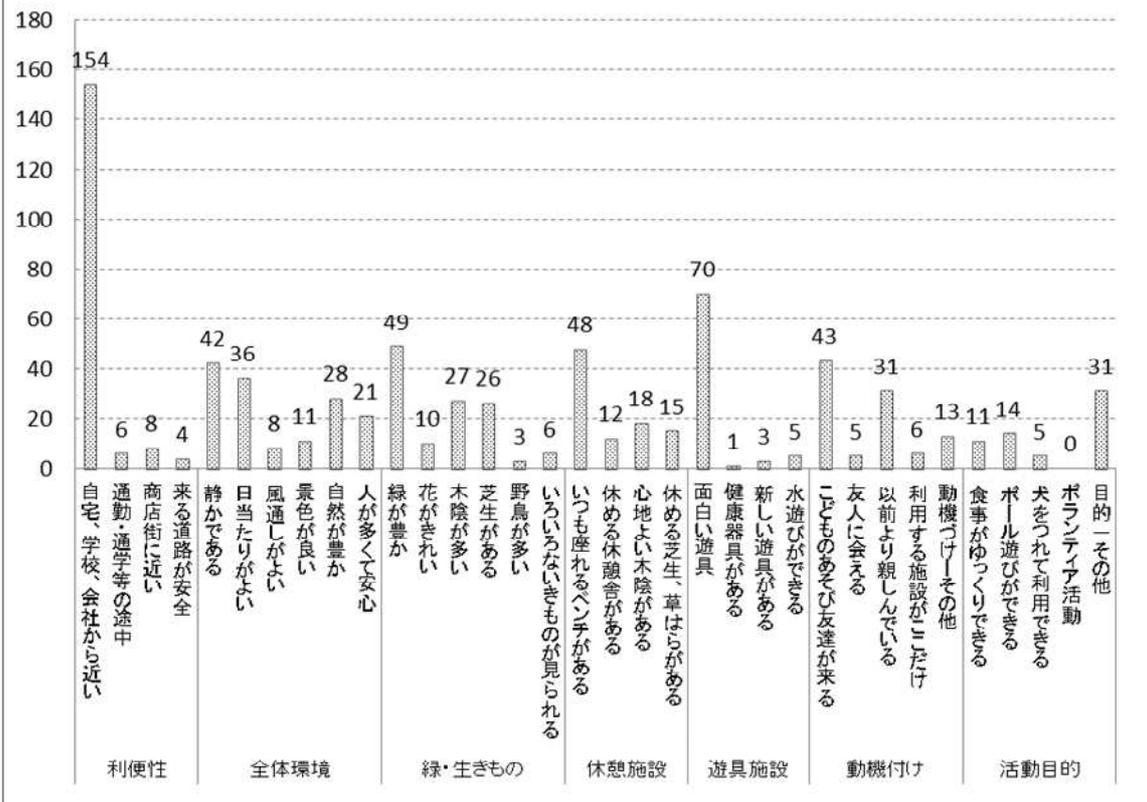


図2-58 H26.公園の選択理由（成人40～50代）

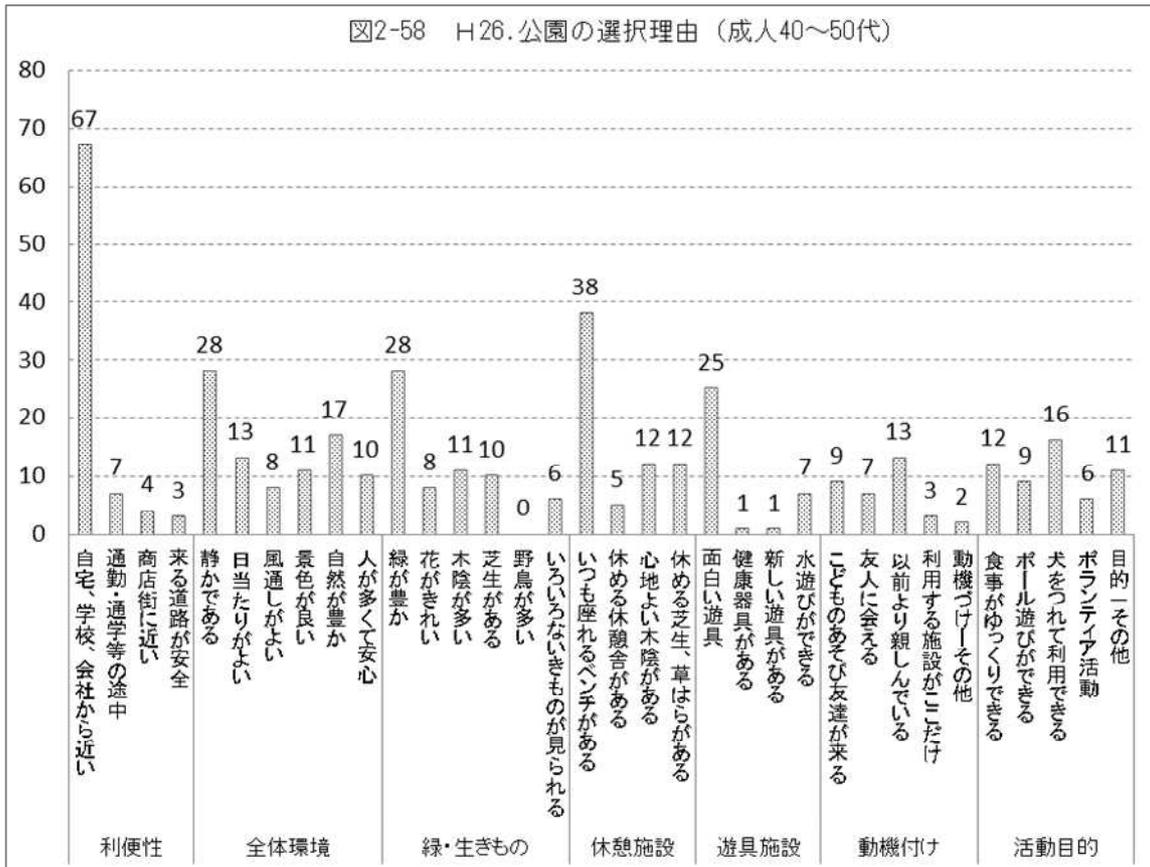
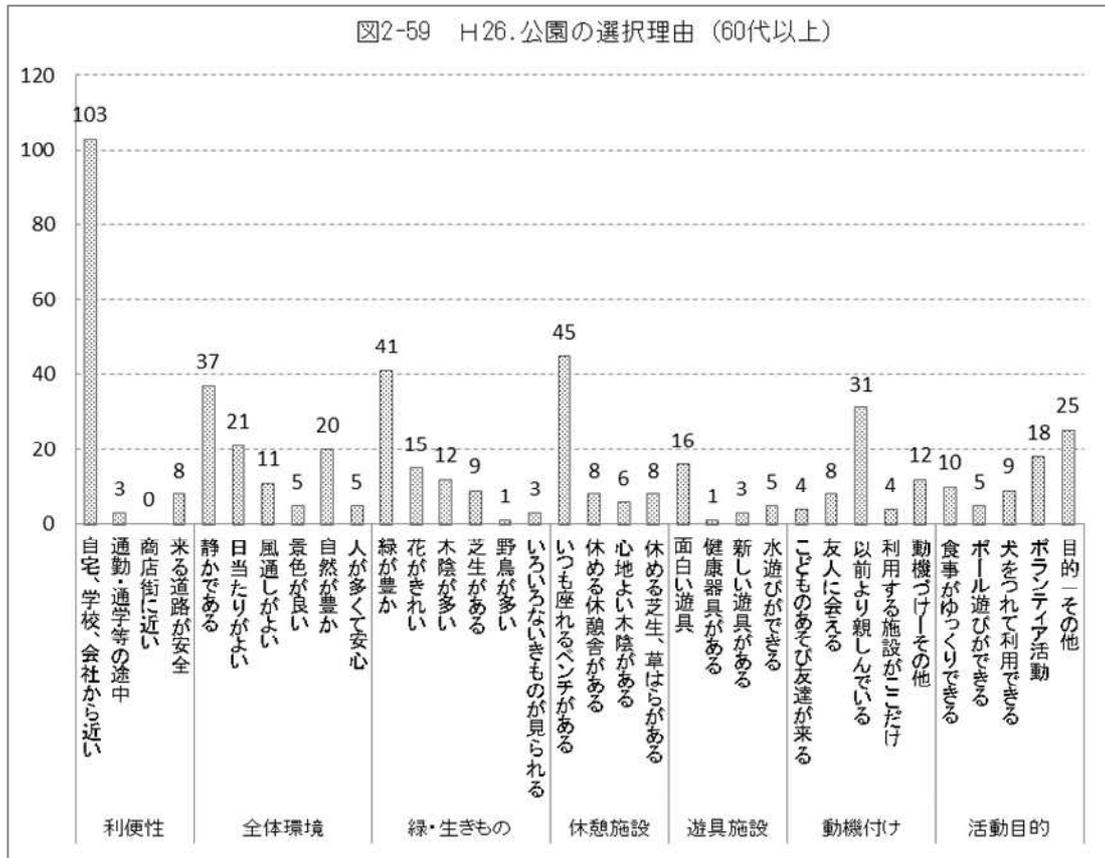


図2-59 H26.公園の選択理由（60代以上）



「その他」での記述

当該利用公園の特徴的な施設や利用、日常的な活動の場としての利用など、多様な選択理由が見られる。特徴的な理由を以下に示す。

<公園の特徴を理由としたもの>

- | | |
|------------|---------------------------|
| 駒場公園、駒場野公園 | ゆっくりできる、散策に良い |
| 東山公園、中根公園 | 子供が走り回れる、運動ができる |
| 目黒天空公園 | 一度来てみたかった、新しい施設で写真を撮りに来た |
| 中目黒公園 | 植物が好きだから、グラウンドが伸び伸びとできるから |
| 八幡公園 | 死角が無くて安心できる |

<公園の利用状況からの選択>

- こともが多い(菅刈公園)
 - ・子供が多く利用していて安心、子供を見るのが楽しい
- 子供など利用が少ない(三角山公園、大塚公園)
 - ・利用が少ないので静かが良い、他の利用者が少ないので、思い切り遊べる

<立地が主な要因>

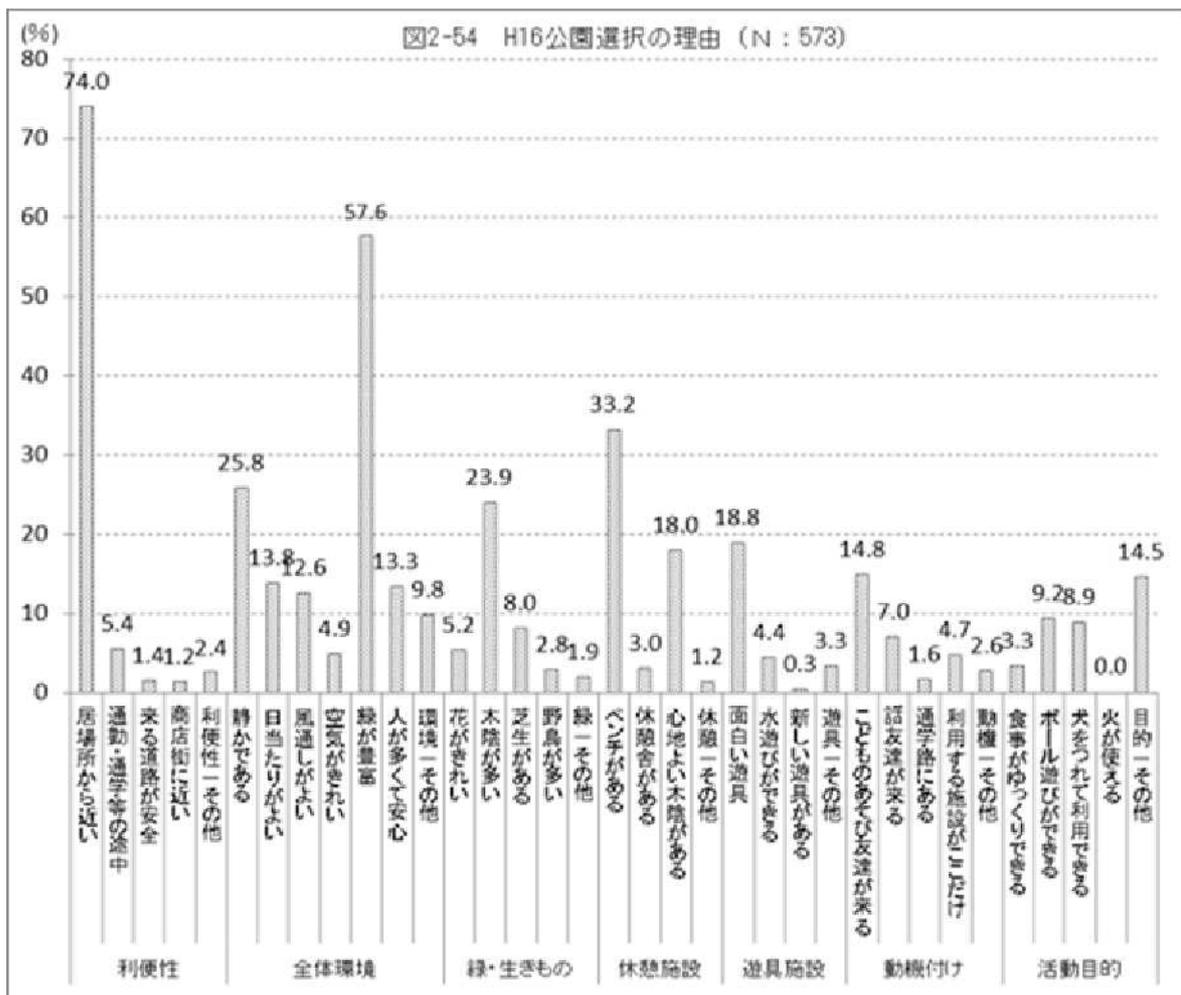
- 待ち合わせに良く使う
 - ・駅近くで待ち合わせに良い(社会人)、友人と待ち合わせるのに良い(小学生)
- 施設利用のからの立ち寄り
 - ・幼稚園、児童館などを利用した後に、いつも仲間と利用する
 - ・図書館を利用した後に休む

2)平成16年度と平成26年度との比較

前回と同様に「近い」が最も多い選択理由になっているが、2番目が「緑が豊富」から「いつも座れるベンチ」になっている。「座れるベンチ」の割合は大きな変化はないが、「緑が豊富」の割合が20%ほど下がっている。一方、4番目に「面白い遊具」が入り、子供が主に利用する「遊具」に対して、これまでの一般的な遊具よりも特徴ある遊具への要望が高まっている。特に、幼児用の遊具は、「その他」や他の項目でも指摘されており、要望が高いといえる。

H16年	H26年
・居場所から近い(424 : 74.0%)	・自宅、学校、会社から近い(355 : 76.2%)
・緑が豊富(330 : 57.6%)	・いつも座れるベンチがある(145 : 31.1%)
・いつも座れるベンチがある(190 : 33.2%)	・緑が豊か(132 : 28.3%)
・静かである(148 : 25.8%)	・面白い遊具(120 : 25.8%)
・木陰が多い(137 : 23.9%)	・静かである(114 : 24.5%)

* サンプル数 H16 : 573、H26 : 466



(2) よく行く公園(複数回答 - 最大3施設)

前回と同様に、「駒沢オリンピック公園」と「林試の森公園」が上位となり、公園の選択理由は「広い」、「多様な遊び方ができる」、「利用が選択できる」が多くを占めている。また、「世田谷公園」も、広さとともに、SLなどの多様な遊具や、木工ができるなどプレイパーク的な部分の存在が大きな要因となっていると考えられる。

前回から順位を上げた公園は、「碑文谷公園」「中目黒公園」で、「碑文谷公園」は小動物とのふれあいやポニーなど、動物との触れ合える施設であることが選択理由として多くあげられている。「中目黒公園」は、前回調査では整備直後であったが、その後周知され、芝生広場や多様な花壇など、その特徴が認知されてきたことが要因となっていると考えられる。

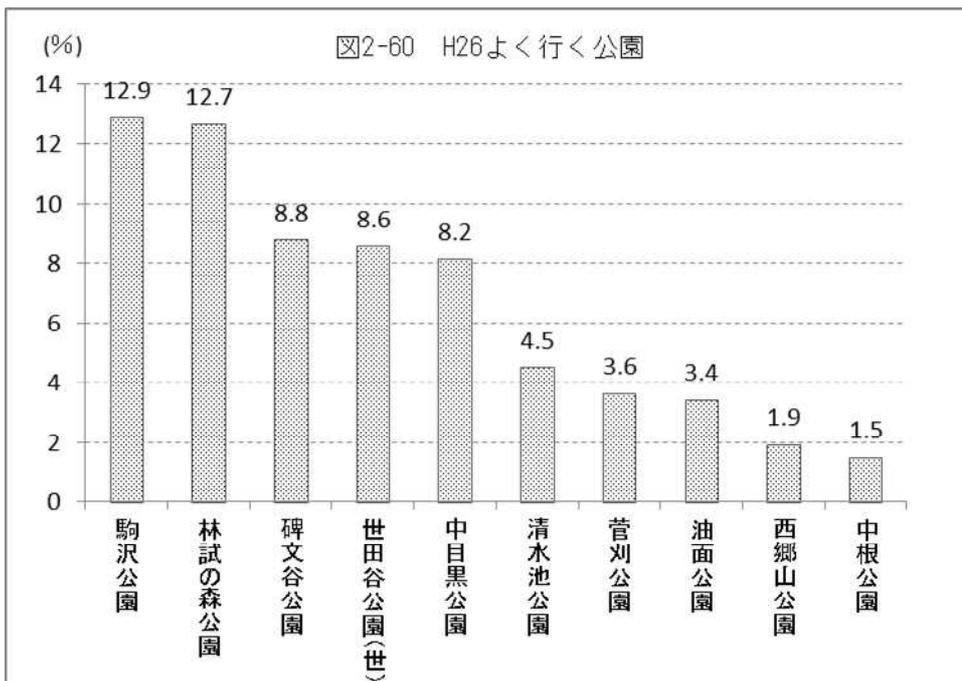
「油面公園」については、前回調査以降、大規模な改修等は実施していないが、公園の評価で「人が多く安心できる」を17人中12人が選択しており、大きな選択の理由になっていると想定される。

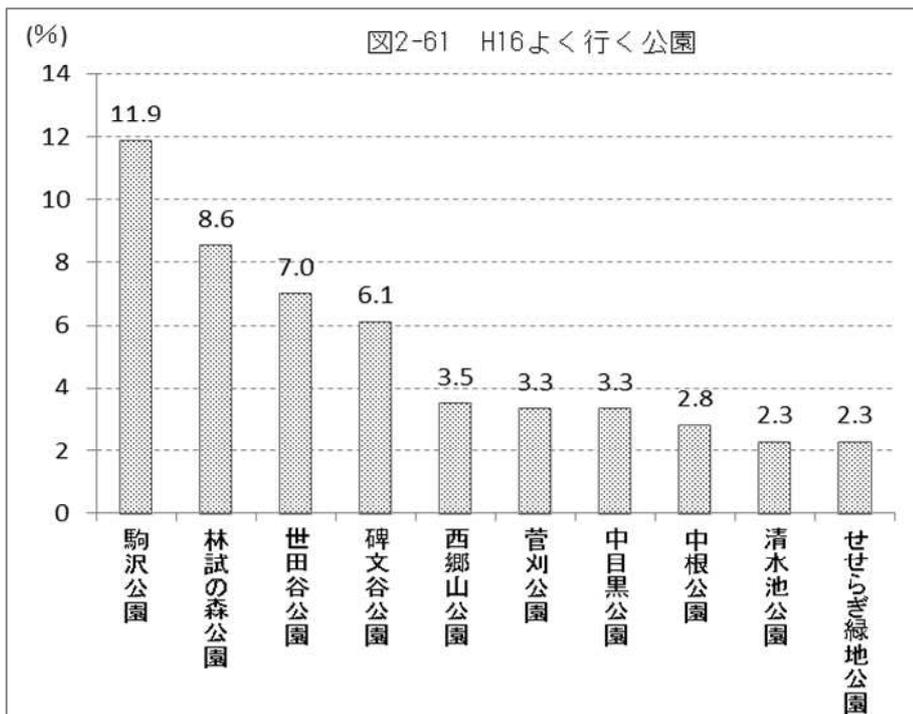
増加している公園

- ・ 碑文谷公園 遊具エリアの評価、池や生き物が魅力
- ・ 中目黒公園 施設の周知、植物の成長、芝生
- ・ 油面公園 人が多くて安心、いろいろ遊べる

前回調査、今回調査も回答の多い公園

- ・ 駒沢公園 広い、家族で遊べる、運動ができる
- ・ 林試の森公園 緑が豊富、ゆっくりできる
- ・ 世田谷公園 SLなど遊具が魅力、広い、木工ができる





その他の公園で特徴的な選択理由

- ・人が少ないので、遊具や広場を子供が思い切り遊べる
- ・人が少なく、静かに緑や花を楽しめる
- ・狭いので、子供を見やすい
- ・子供の声を聞きに来る

(3) 利用状況

1) 利用内容

平成 26 年度の傾向

最も多い利用内容は、「休息・散歩」で 27.9%を占めている。次いで、「遊具遊び」(26.4%)「遊び」(18.6%)となっている。新しく選択項目に入れた「動植物観察」「ボランティア」も、少数ながら利用内容として回答されている。

前回調査との比較

最も多い利用内容は、前回調査と同様に「休息・散歩」となっているが、前回調査では 34.4%であったのに対し、今回調査では 27.9%と減少している。一方、「遊具遊び」の割合が前回の 9.4%から 26.4%に増加している。これは、選択項目の変更に伴い、前回の選択項目である「子供を遊ばせる」が、「遊具遊び」と「遊び」に振り分けられたことも要因と考えられる。

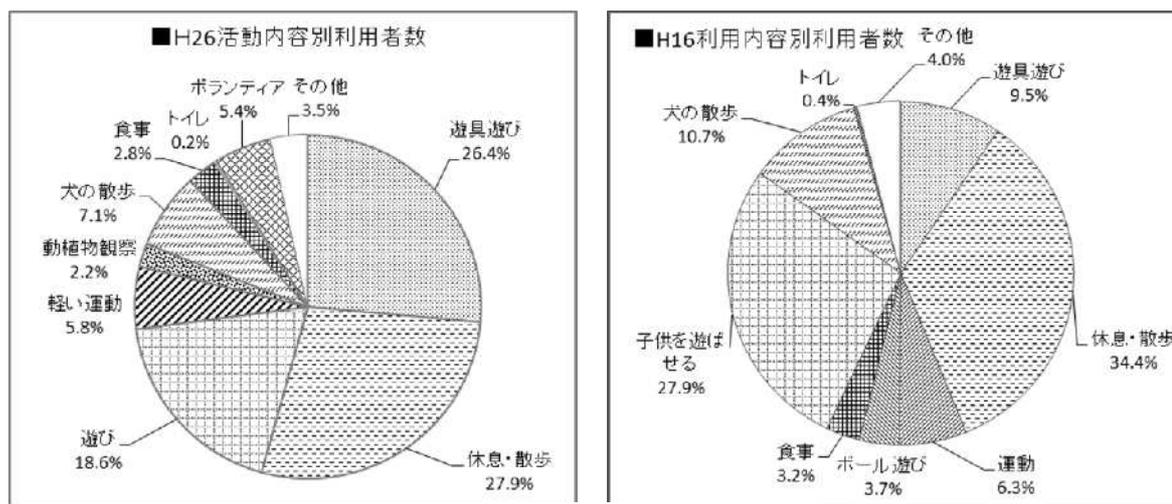


図 2-62 利用内容別利用者数

2) 利用頻度

平成 26 年度の傾向

最も多い利用頻度は「週 2~3 回」で 28.4%となっている。次いで「月数回」の 21.6%で、「初めて」の利用者が 3.6%増えているなど、利用頻度の低い利用者が増えている傾向にある。

これは、目黒天空庭園が、ジャンクション上部に設置された立体都市公園として評価(都市公園コナール、屋上・壁面・特殊緑化コナール)を受けたことなどにより、観光スポットとして注目を集めていることなどが影響していると考えられる。

平成 16 年度、26 年度との比較

前回と同様に、「週 2～3 回」が最も多く 28.4%を占めているが、前回調査が 43.1%に対し、14.7%減少している。また、「毎日」が 38.8%から半分以下の 15.2%に減少している。一方、新たに選択項目に含めた「月数回」を含め、頻度の低い利用者が多くなっている。

こ前回調査と比較して、「毎日」や「週 2～3 回」の日常的な利用者の割合が減少し、「月数回」「年数回」などの利用者が増えている傾向がある。

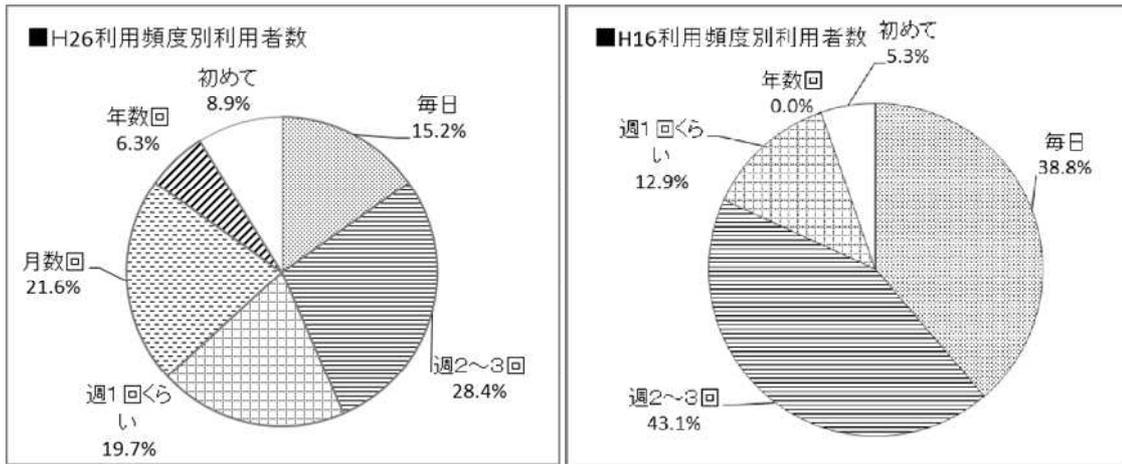


図 2-63 利用頻度別利用者数

3) グループ構成

グループ構成は、「家族・子連れ」(47.2%)が最も多く、次いで「一人」(30.4%)となっており、今回、初めて区分にいた「園外保育」は 1.7%である。

(利用者数調査では、「園外保育」が多く確認されているが、引率する保育士の方にアンケートを実施することが困難であったため、園外保育の回答が少なくなっている)

前回調査と比較すると、「一人」の割合が 41.4%から 30.4%に減少し、「家族・子連れ」が 36.6%から 47.2%に増加している。

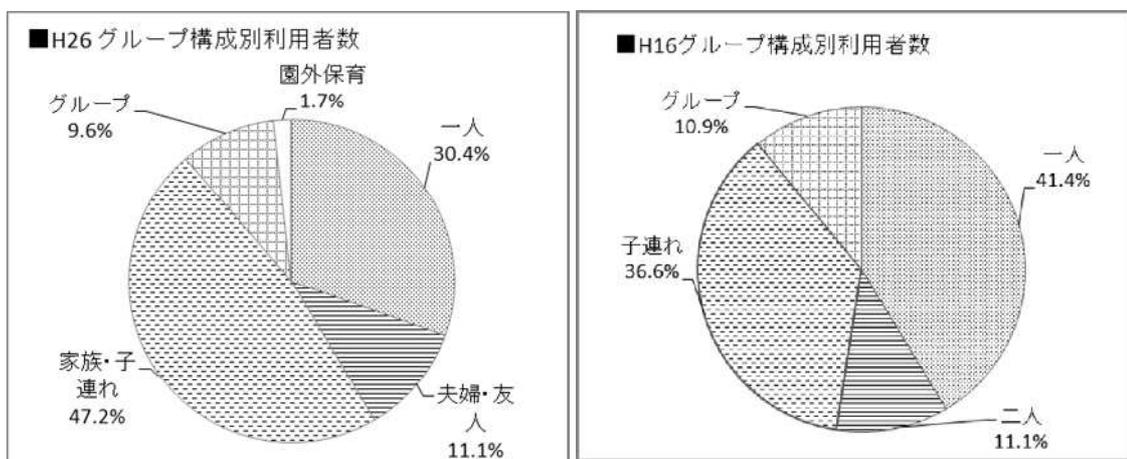


図 2-64 グループ構成別利用者数

4) 利用時間

「1時間以内」が最も多く36.0%を占め、次いで「30分以内」が27.5%、「2～3時間」が24.1%となっている。

前回との比較では、「2時間以上」の割合が増加し、22.9%から36.5%になっていることから、利用時間が長時間化していると考えられる。調査時においても、菅刈公園等では、休日にお弁当を持参して、1日家族で遊ぶ姿が確認されている。

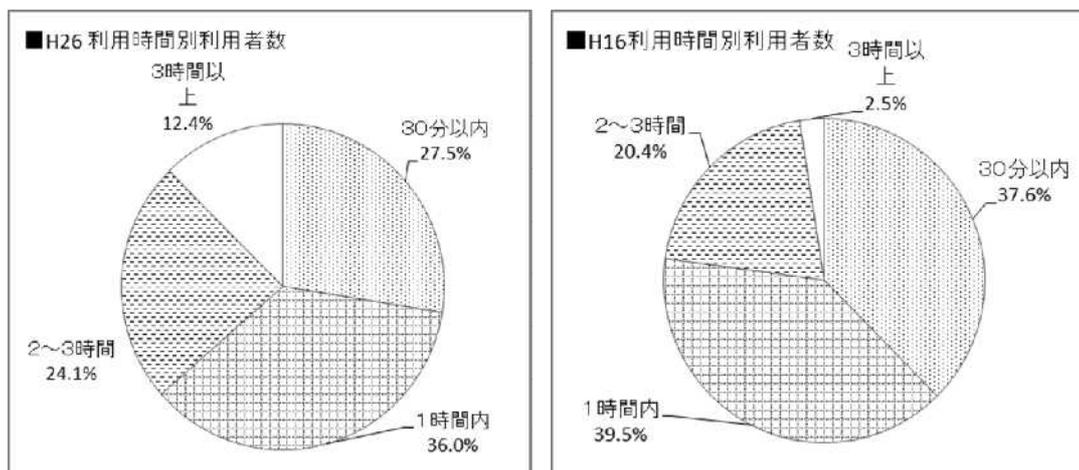


図 2-65 利用時間別利用者数

5) 利用時間帯

前回調査と同様に、「午前中」が最も多く37.4%となっているが、「午後」も35.7%を占め、「午前」と、「午後」に利用が分散している。

一方、「夕方」が9.1%から11.5%へ増加している。調査時においては、塾などの習い事の前後に、友人と遊ぶ小学生が、送り迎えの親と一緒に公園を利用している姿が確認されている。

なお、「子連れ」の方など、時間をあまり限定しておらず、子供の友達、用事などにより利用時間帯が特に決まっていないという利用者もいる。

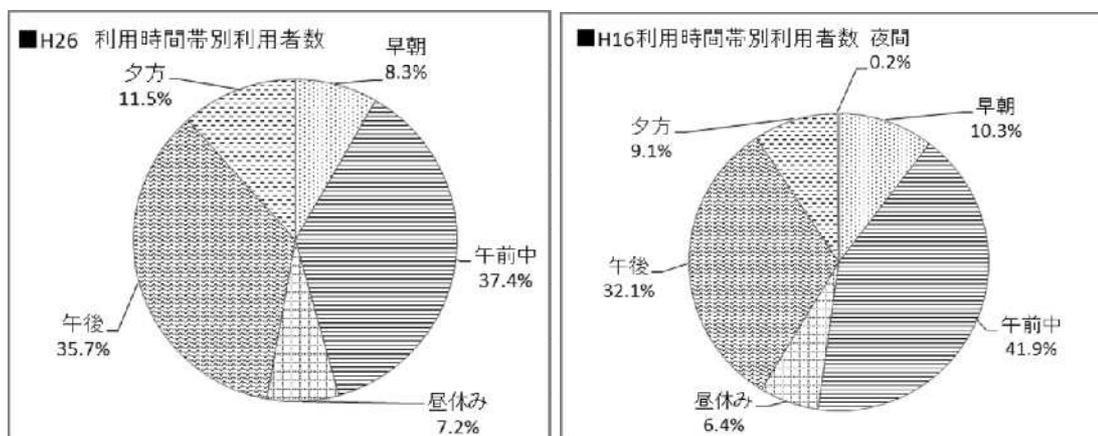


図 2-66 利用時間帯別利用者数

6) 到達手段

到達手段の区分は、前回調査で「その他」としていた区分を、遠方からの来園者を予測して、「路線バス」と「車」に変更した。そのため、前は、「その他」に入っていた回答を、路線バスと車に振り分けたものとして扱う。

前回と同様に「徒歩」が70.7%で最も多くなっている。前回との比較では、「自転車」、「その他」(路線バス+車)の割合が増加している。

また、「徒歩」と答える利用者でも、「自転車で来る時もある」という回答もあり、持ち物や子供の状況、友達との関係などで、双方を利用していることが想定される。

今回選択肢とした「路線バス」「車」の利用者は、菅刈公園、目黒天空庭園、不動公園、自由が丘公園などで回答する利用者が多く、当該公園を目的とする場合と、周辺施設への来訪を目的とした立ち寄り利用の場合があると考えられる。

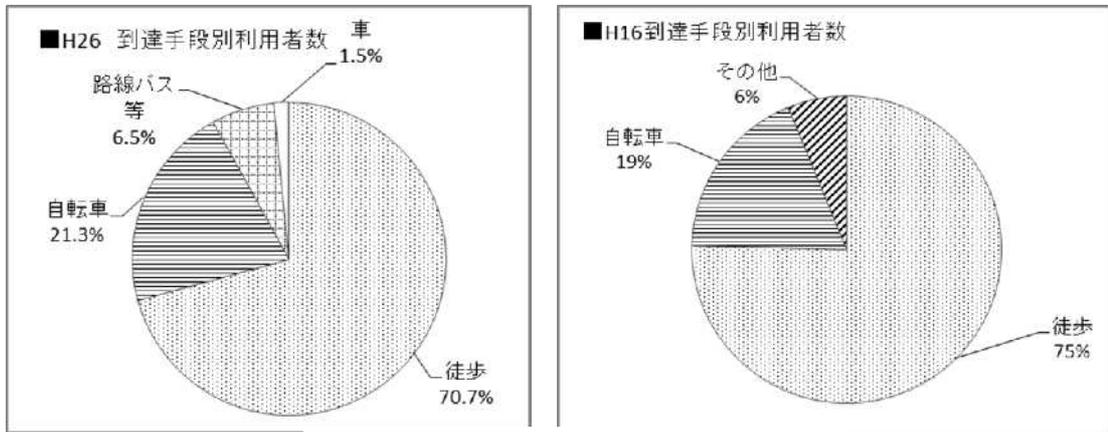


図 2-67 到達手段別利用者数

7) 到達時間

到達時間は、「5分以内」が41.1%で最も多く、次いで「10分程度」33.7%となっている。前回との比較では、「20分以上」が14.6%から25.2%に増加しており、遠方からの利用者が増えている傾向にある。

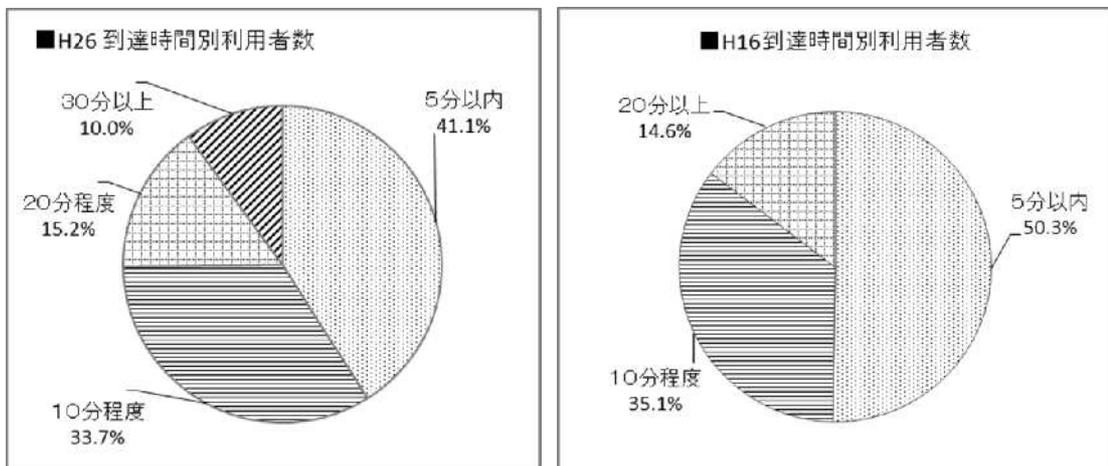


図 2-68 到達時間別利用者数